

# えらぶ特産品加工場整備事業

シリーズ2

今月号と来月号にかけて、「今後の生産が期待される知名町産シマグワ」と題し、玉川大学農学部の中井一寿教授に、本町に生息するシマグワについて“桑”（詳）しく説明していただきます。

## 「今後の生産が期待される知名町産シマグワ」概要と効能

### ■シマグワとは

桑の名の由来は「食う」が変化した「食葉（くわ）」で、桑がカイコにひたすら食べられるさまを表すという説があります。童謡「あかとんぼ」の中では、「山の 畑の 桑の実を・・・」と歌われ、古くから利用される身近な植物です。

これまで、桑はカイコの餌として考えられてきました。しかし最近の研究で、桑の葉は、私たちの健康維持に有効な様々な効果を持つことが分かっており、健康食品の素材としても注目されています。

シマグワは、南西諸島等の亜熱帯地域の自生桑で、知名町内で見られる桑もシマグワです。シマグワは、葉質が良く休眠せずに年中葉を付け、葉が硬くなるのが遅く、潮風害に強いので知名町全域で栽培が可能です。

### ■桑の効能

桑は、中国で最も用途の広い薬用木で、葉（桑葉）、根皮（桑白皮）、枝（桑枝）の全てが利用されています。西洋医学でも、クロクワの実、葉、皮が利用されています。800年前から発症が報告される「手足心に従わざる病」は、現在の動脈硬化による血栓症が原因と推察されます。

桑が、「手足心に従わざる病」に効果があるのは、血栓の元になる血液中の悪玉コレステロールの酸化を効果的に防ぐ成分を含んでいるためです。その他、桑に含まれる各種の成分は、糖尿病、高脂血症、肥満症、高血圧、血栓症、肝がん、便秘などの予防・改善、美白作用、神経保護作用など多様な作用を示します。特に、糖尿病の疑いのある人は、食前に桑粉末を服用するか食事と一緒に桑茶を飲むのがお勧めです。



田皆岬に自生するシマグワ

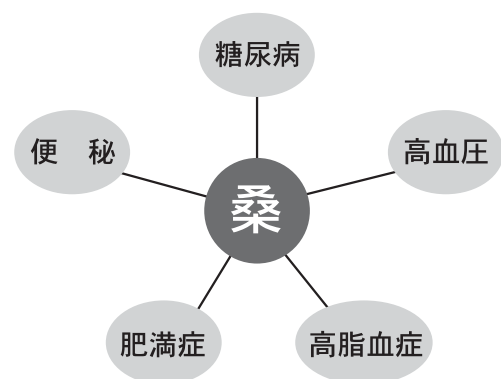
やつなみ かずひさ

八並 一寿 玉川大学教授



#### 略歴

東京水産大学卒、玉川大学准教授を経て現在同大教授。除染食品や未病対応食品の開発などの研究を行っており、日本未病システム学会評議員や日本保健医療学会常任理事などを務めている。



※次号では、知名町産のシマグワの特徴と加工に期待することについて掲載する予定です。

産業振興・雇用の創出・地域活性化・健康なまちづくり

【お問合せ先】農政課 内線 177